



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

2025年3月期 第3四半期決算説明会

取締役専務執行役員 CFO 渡邊明 | 2025年2月5日

※本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

01 決算概要

皆さま、こんにちは。島津製作所CFOの渡邊です。

本日はお忙しいところ、当社2025年3月期第3四半期決算説明会にご参加いただきましてまことにありがとうございます。

では、決算概要の説明を進めます。

第3四半期 増収減益

売上高は順調に増加。成長投資を継続

- ・【売上高】 **1,330億円（前期比+6%）**：計測・航空が牽引、5期連続で過去最高
- ・【営業利益】 **168億円（前期比▲8%）**：成長投資などにより減益

通期目標

4Qは中国の回復や生産増により増収増益を目指す 3Qまでの業績を鑑み、通期目標を修正

- ・【売上高】 **5,400億円（前期比 +5%）**：目標は変更せず過去最高を更新
- ・【営業利益】 **730億円（前期比 +0%）**：増益を達成し過去最高を更新

あらためまして、本日は皆様、大変お忙しい所、当社の2025年3月期の第3四半期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、さっそくですが、決算概要の説明を進めさせていただきます。
まず、決算業績のハイライトです。

第3四半期は、増収減益となりました。売上は、計測と航空が牽引し1,330億円と、5期連続で過去最高を更新しております。営業利益は、プロダクトミックスの悪化、成長投資の増加等により減益となりました。

第4四半期は、中国の回復を含めた売上増に伴う生産増により、増収増益を目指します。
通期目標に関しては、売上高5,400億円、営業利益730億円と、過去最高業績の更新を見込んでいます。

業績サマリー

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

	単位：億円	第3四半期(10月-12月)		前年同期比	
		FY2023	FY2024	増減額	増減率
業績	売上高	1,261	1,330	+69	+6% (除中国：+10%)
	営業利益	182	168	▲14	▲8%
	営業利益率	14.5%	12.6%	▲1.8pt	
	経常利益	171	208	+37	+22%
	親会社株主に帰属する当期純利益	125	148	+23	+19%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	147.93	152.47	+4.53	+3%
	ユーロ(円)	159.17	162.63	+3.47	+2%
	研究開発費	52	71	+19	+37%
	設備投資額	43	61	+18	+40%
	減価償却費	47	48	+1	+3%

為替影響額 (売上高、営業利益は平均為替レートで、為替差損益は期末レートで計上)

売上高 : +22億円

営業利益 : +15億円

為替差損益 : +50億円

FY2023 3Q : 9月末・1ドル150円→12月末・142円

FY2024 3Q : 9月末・1ドル143円→12月末・158円



* 記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、
表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

4

それでは、業績サマリーです。

売上高は、1,330億円で前年同期比+69億円・+6%となりました。中国の影響を除くと、+10%になります。

営業利益は、168億円で前年同期比▲14億円・▲8%、
営業利益率は12.6%となり、前年から1.8ポイント悪化しました。

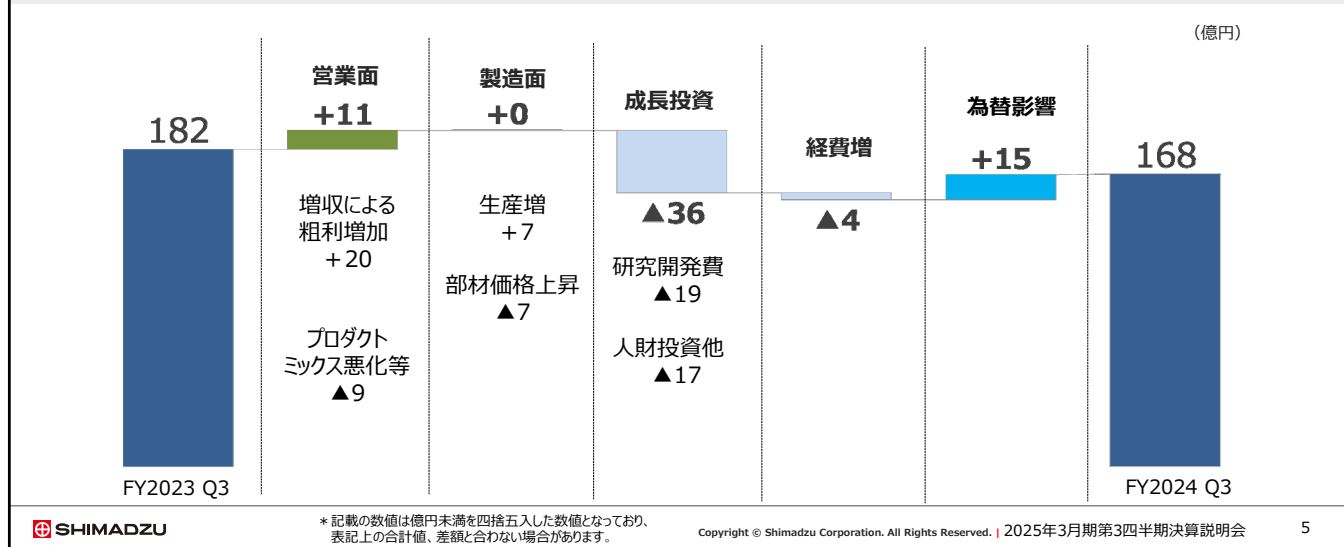
経常利益は208億円となり、前年同期比+37億円・+22%となりました。
増加理由は、営業外の損益で、前年と比較して為替差益が発生したためです。

親会社株主に帰属する当期純利益は148億円となり、前年同期比+23億円・+19%となりました

連結／営業利益増減要因（10-12月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 営業面	: プロダクトミックス悪化を増収による粗利増で補い増加	+11億円
■ 製造面	: 部材価格上昇を生産増で補う	+0億円
■ 成長投資	: 研究開発費、人財投資などの成長投資	▲36億円



続きまして、営業利益の増減要因につきまして、ご説明します。

営業面は、増収により粗利が20億円増加しました。一方、プロダクトミックスの悪化などで9億円粗利が悪化し、結果として、営業面では11億円の利益増となりました。

製造面は、インフラ影響による部材価格7億円の高騰を生産増による工場収支7億円の改善が補い、結果として製造面の利益影響はプラスマイナスゼロでした。

成長投資は、研究開発費19億円、人財投資17億円等で36億円増加しました。

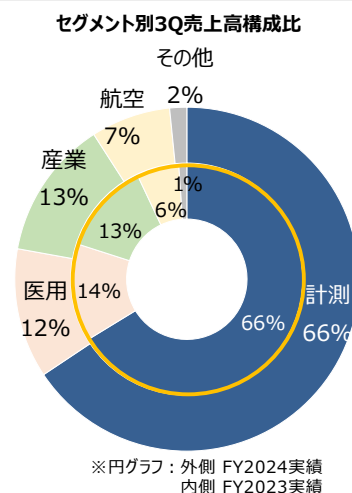
為替による影響は、15億円の押し上げとなりました。

セグメント別損益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 計測：増収減益（売上は過去最高）
- 医用：減収減益
- 産業・航空：増収増益（売上・利益ともに過去最高）

単位 億円	売上高			営業利益			営業利益率	
	FY2024 3Q	前年同期比		FY2024 3Q	前年同期比		FY2024 3Q	前年同期比
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減
計測機器	873	+38	+4%	125	▲16	▲12%	14.3%	▲2.6pt
医用機器	162	▲10	▲6%	1	▲7	▲93%	0.3%	▲4.0pt
産業機器	174	+10	+6%	26	+7	+40%	14.9%	+3.5pt
航空機器	100	+25	+33%	17	+2	+13%	16.8%	▲3.0pt
その他	21	+7	+51%	3	+0	+7%	10.6%	▲2.3pt
調整額	-	-	-	▲3	▲0	-	-	-
合計	1,330	+69	+6%	168	▲14	▲8%	12.6%	▲1.8pt



続きまして、セグメント別損益について説明します。

計測は増収減益、医用は減収減益でした。

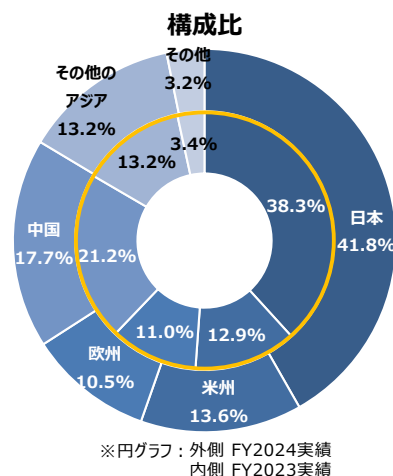
産業と航空は増収増益で、ともに過去最高を更新しました。

連結／地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 売上高：日本、米州が牽引。中国の構成比▲3.5pt減少
- 海外売上高比率：58.2%（前年同期比▲3.5pt）

単位 億円	売上高				構成比	
	FY2023 3Q	FY2024 3Q	前年同期比		FY2023 3Q	FY2024 3Q
			増減額	増減率		
日本	483	556	+73	+15.1%	38.3%	41.8%
海外	778	775	▲4	▲0.5%	61.7%	58.2%
米州	162	181	+19	+11.9%	12.9%	13.6%
欧州	139	140	+1	+0.5%	11.0%	10.5%
中国	268	236	▲32	▲12.1%	21.2%	17.7%
その他のアジア	166	176	+9	+5.6%	13.2%	13.2%
その他	43	42	▲1	▲1.2%	3.4%	3.2%



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

7

続きまして、地域別の売上高です。

日本と北米を含む米州が牽引しました。

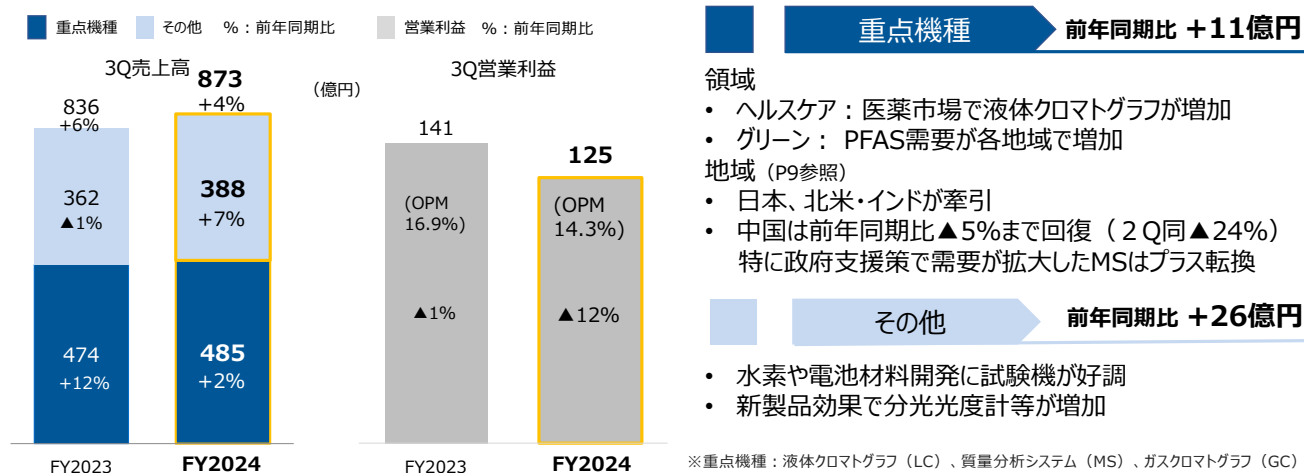
一方、中国は、12.1%とマイナスになりました。ただし、この中国は3Qになり、2Qと比較すると計測の減少幅が改善しています。

海外売上比率は、日本の売上が伸長し、前年同期比3.5ポイント減の58.2%となりました。

計測機器／売上高・営業利益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 売上高：重点機種、その他機種ともに過去最高を更新
- 営業利益：成長投資増などより減益



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

8

それでは、セグメントごとの業績をご説明いたします。まずは、計測機器です。

売上高は、873億円で前年同期比 + 37億円・+ 4%となりました。
重点機種の売上高は、485億円で前年同期比 + 11億円・+ 2%となりました。
領域別では、ヘルスケア領域でLC（液体クロマトグラフ）が、
グリーン領域でPFAS分析向けにMS（質量分析計）が増加しました。

地域別では、日本、北米、インドが牽引しました。
中国は、前年同期比▲5%まで回復し、特にMSは政府支援策で需要が拡大し、
プラス成長となりました。

その他機種の売上高は、388億円で前年同期比 + 26億円・+ 7%です。
試験機が新素材開発向けに増加したことや、新製品効果で分光光度計が増加したことが
主な要因です。

営業利益は、将来に向けた成長投資を行った結果125億円。
前年同期比▲16億円・▲12%となりました。

計測機器／地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位 億円		FY2023	FY2024	前年同期比		3Q(10-12月) 概況
				増減額	増減率	
日本	3Q累計	817	866	+49	+6%	・医薬向けに液体クロマトグラフや質量分析システムが増加 ・試験機が新素材開発向けで増加
	1Q	221	232	+11	+5%	
	2Q	321	327	+6	+2%	
	3Q	275	307	+32	+12%	
海外	3Q累計	1,606	1,613	+7	+0%	・海外売上高比率は65%(前年比▲2pt) ・北米は21%増、中国は減少幅縮小
	1Q	493	506	+13	+3%	
	2Q	552	541	▲12	▲2%	
	3Q	561	566	+5	+1%	
北米	3Q累計	240	278	+38	+16%	・特定顧客向けLC増加、マルチベンダーサービス会社（Zef社）の 新規連結貢献
	1Q	72	82	+10	+13%	
	2Q	91	103	+12	+13%	
	3Q	77	94	+16	+21%	
欧州	3Q累計	290	303	+14	+5%	・臨床検査向けに質量分析システムが増加
	1Q	85	91	+6	+8%	
	2Q	94	98	+4	+4%	
	3Q	111	114	+3	+3%	
中国	3Q累計	594	527	▲67	▲11%	・医薬、受託分析市場の低迷により、液体クロマトグラフが減少 ・化学向け大口案件の反動によりGCが減少 ・大規模設備投資支援によりアカデミア、官需（税関）向け増加
	1Q	191	181	▲9	▲5%	
	2Q	206	167	▲39	▲19%	
	3Q	198	179	▲19	▲10%	
その他のアジア (インド除く)	3Q累計	227	218	▲10	▲4%	・韓国で大口案件の反動で質量分析システムが減少
	1Q	69	66	▲2	▲3%	
	2Q	77	70	▲7	▲9%	
	3Q	81	81	▲0	▲1%	
インド	3Q累計	123	141	+18	+15%	・医薬、受託分析向けに、液体クロマトグラフが増加 ・前年代理店向け出荷増（4Qから3Qへ前倒し）
	1Q	34	40	+7	+20%	
	2Q	39	49	+10	+25%	
	3Q	50	52	+2	+4%	

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

9

続きまして、計測の地域別売上高についてご説明いたします。

日本は、製薬向けにLCとMSが、新素材向けに試験機が増加し、前年同期比+12%となりました。

海外全体は、中国の落ち込みを北米がカバーし、前年同期比+1%。

地域別では、北米が特定顧客向けLCの増加、またマルチベンダーサービスのZef社の貢献により、前年同期比+21%となっています。

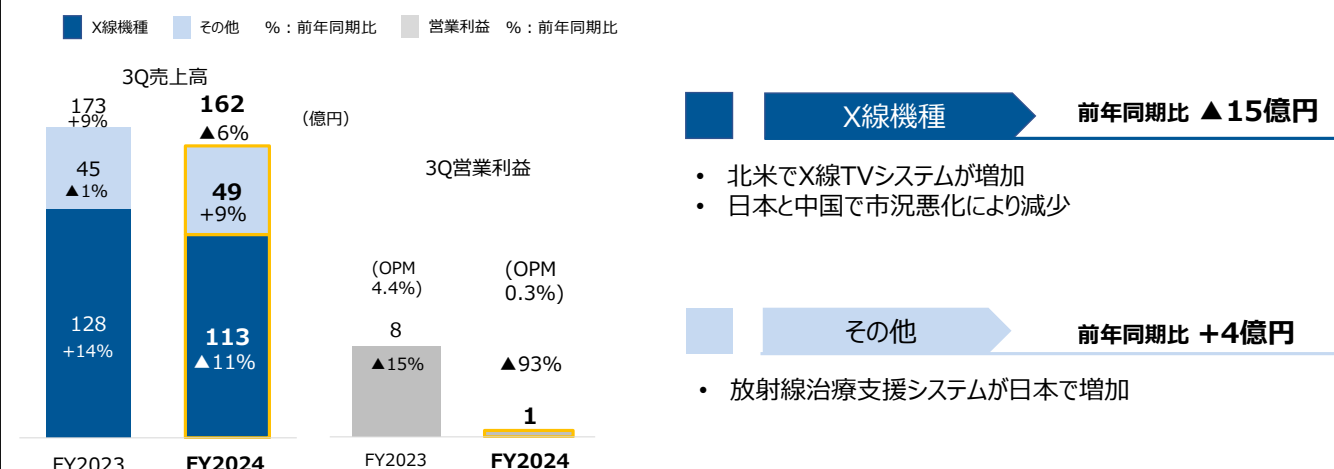
欧州は、臨床向けに質量分析システムが増加しました。

中国は、政府支援策によりアカデミア、税関向けが増加しました、前年同期比で2Qは▲19%でしたが、この3Qでは▲10%まで回復しました。

その他のアジアは、前年に韓国で官庁向け環境分析装置の特需があった反動で、若干減少しました。

インドは、製薬向けが好調ですが、前年に代理店向けの前倒し出荷により、前年同期比+4%となりました。インドは、引き続き好調です。

- 売上高 : X線機種は減少、その他機種は増加
- 営業利益 : 売上減、プロダクトミックス悪化などにより減益



続きまして、医用機器です。

売上高は162億円で、前年同期比▲11億円・▲6%となりました。

X線機種では、北米でX線TVが好調ですが、最大市場である日本の事業環境は厳しく、加えて中国においても、反腐敗防止運動の影響が残っていることから売上高は113億円、前年同期比▲15億円・▲11%となりました。

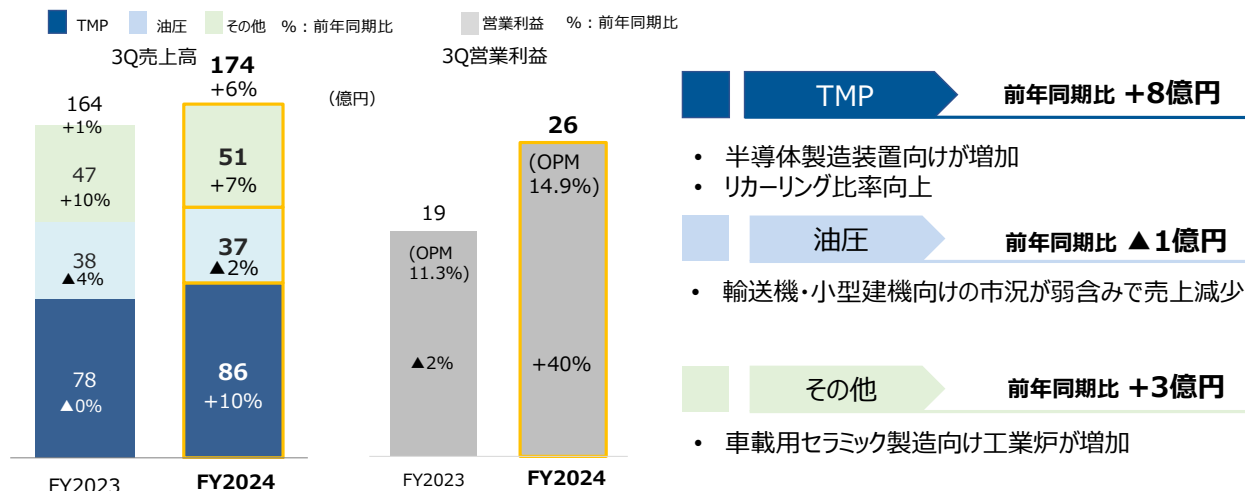
その他の機種は、日本で放射線治療支援システム等が増加し売上高49億円、前年同期比+4億円・+9%となりました。

営業利益は、売上高の減少とプロダクトミックスの悪化により1億円となり、前年同期比▲7億円・▲93%となりました。

産業機器／売上高・営業利益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 売上高：半導体製造装置向けTMP、車載用セラミック製造向け工業炉増加
- 営業利益：増収効果に加え、TMPのリカーリング比率向上により粗利率改善



※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移管。
FY2024、FY2023の数値、ならびにFY2024/FY2023前年同期比を変更後のセグメント区分に組み替え。
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

11

ここからは、産業機器です。

売上高は、174億円で、前年同期比+10億円・+6%となりました。

TMP（ターボ分子ポンプ）は半導体製造装置向けに製品やリカーリング事業が拡大し、売上高86億円で、前年同期比+8億円・+10%となりました。

油圧機器は輸送機や小型建機向けの市況が弱含み、売上高37億円で、前年同期比▲1億円・▲2%となりました。

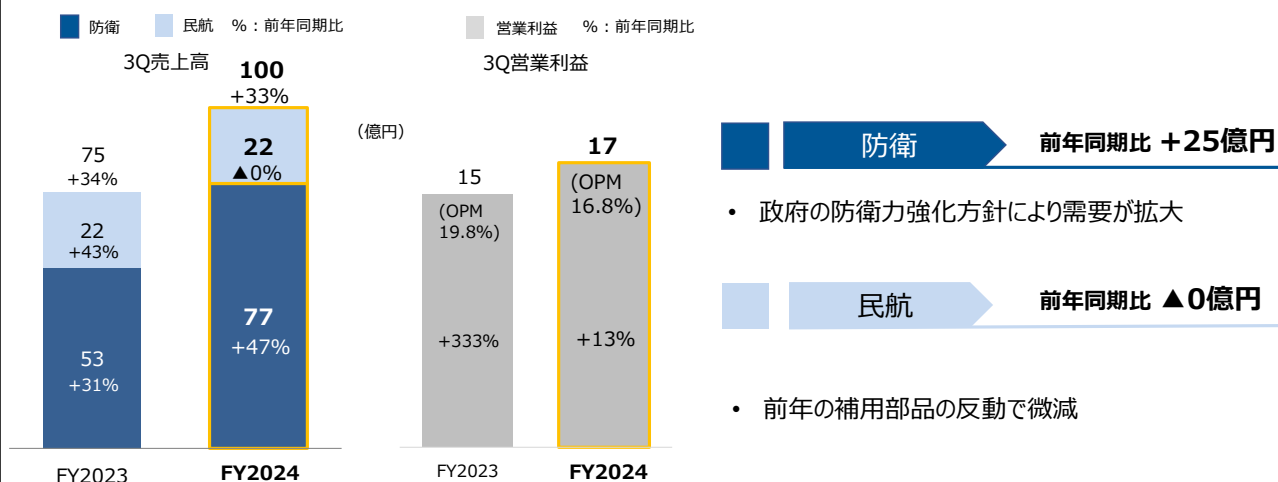
その他は、車載用セラミックス向け工業炉が増加し、売上高51億円で、前年同期比+3億円・+7%となりました。

営業利益は、増収効果に加えて、TMPのリカーリング比率が前年から4ポイント増加しています。これにより、粗利が増加して26億円となり、前年同期比+7億円・+40%となりました。

航空機器／売上高・営業利益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 売上高：防衛向け大幅増加、民間航空向け減少
- 営業利益：増収効果により増益



※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移管。
FY2024、FY2023の数値、ならびにFY2024/FY2023前年同期比を変更後のセグメント区分に組み替え。 Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

12

航空機器についてご説明します。

売上高は100億円で、前年同期比+25億円・+33%となりました。

防衛分野は、政府の防衛力強化方針による需要増加で売上高77億円で、前年同期比+25億円・+47%です。

民間航空機分野は、航空旅客需要の増加により、航空機向け搭載品が増加していますが、前年にあった補用品の反動で22億円にとどまり、前年と比較してほぼ横ばいとなりました。

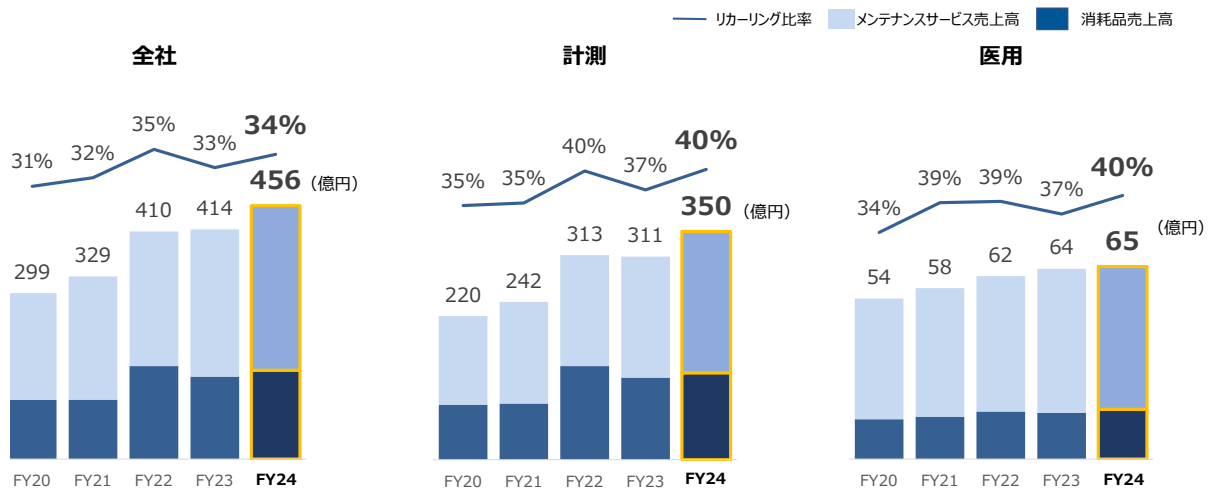
営業利益は、増収効果により17億円で、前年同期比+2億円・+13%となりました。

リカーリング売上高・比率（10-12月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

【全社】（前年同期比+42億円）：計測が牽引し増加

- ・計測（前年同期比+39億円）：北米マルチベンダーサービス会社（Zef社）の貢献等によりサービス増加
- ・医用（前年同期比 +1億円）：北米サービス会社（CIS社）の貢献、保守部品増等により増加



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

13

続きまして、リカーリングについてご説明します。

全社は売上高456億円、前年同期比+42億円・+10%となりました。
結果、リカーリング比率は34%となり、前年から1ポイント上昇しています。

主力の計測は、北米マルチベンダーサービス会社の貢献などにより、サービス・メンテナンスが増え350億円、前年同期比+39億円・+12%となりました。
結果、計測のリカーリング比率は、40%となり、前年から3ポイント上昇しています

医用は、北米サービス会社の貢献、保守部品の増加などにより、サービス・メンテナンスが増えて65億円、前年同期比+1億円・+1%となりました。
結果、医用のリカーリング比率は40%となり、前年から3ポイント上昇しています。

※リカーリング事業：保守部品・消耗品の販売や、機器のメンテナンス・サービス業務

02 計測受注及び中国の状況

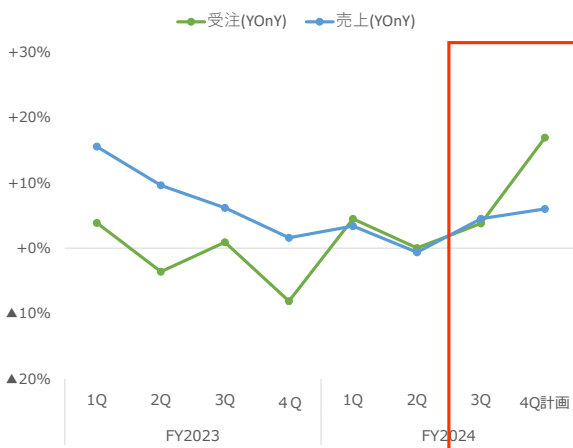
ここからは、皆様の関心が高い、計測の受注及び中国の状況についてご説明します。

計測受注・売上

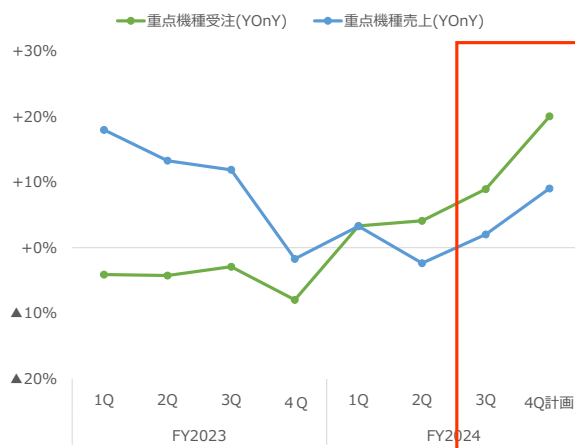
Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 計測全体：2Qがボトムで3Qから改善
- 重点機種：受注は1Qから、売上は3Qから増加。MSは、中国の政府支援策などにより3Q、4Qと増加

計測全体 *円ベース



計測重点機種 (LC,MS,GC) *円ベース



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

15

計測の受注および中国の状況につきまして、ご説明します。

このページでは、計測全体と、計測重点機種の前年同期比を、四半期ごとに記載したグラフを掲載しています。

計測全体の受注・売上は、中国の政府支援策の効果もあり改善しています。
重点機種（LC、MS、GC）も、受注・売上ともに改善しており、
特に売上の先行指標である受注は、前年の4Qを底に3四半期連続で回復しました。
4Qも継続して改善が上回ると見えています。

計測地域別受注前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 日本：製薬、GX向けに伸長
- 海外：前年に前倒し受注があったインドを除き、プラス成長

* 円ベース	1Q	2Q	3Q	市況、当社の状況（3Q）
日本	+10～13%	▲6～▲4%	+1～3%	市況：総じて堅調 当社の状況：製薬、グリーン向けに伸長
海外	±1%	+1～3%	+4～6%	
北米	+24～26%	+20～23%	+10～13%	市況：製薬投資減少。政権交代でアカデミア、官需予算の執行鈍化 当社の状況：製薬、臨床、PFAS向けに注力。新規連結のZef社も貢献
欧州	+1～3%	±1%	+10～13%	市況：ドイツを中心に市況は低迷 当社の状況：臨床向けが増加
中国	▲23～▲20%	▲16～▲14%	+1～3%	市況：政府支援（大規模設備投資補助）などで回復傾向 当社の状況：アカデミア、税関向け受注拡大。医薬向けも前年同期比並みまで回復
その他のアジア	+10～13%	+10～13%	▲3～▲1%	市況：東南アジア、インドで製薬向け好調 当社の状況：インドで前年3Qに4Qからの前倒し受注あり
内インド	+20～23%	+17～19%	▲13～▲10%	市況：製薬向け好調が継続 当社の状況：インドで前年3Qに4Qからの前倒し受注あり
連結	+4～6%	±1%	+4～6%	

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

16

計測の地域別受注の前年同期比について、
地域別の市況および当社の状況も合わせてご説明します。

日本は、総じて堅調で、当社も製薬やグリーン向けに伸長しています。

海外の北米は、薬価の引下げなど製薬市場での投資の減少に加え、
政権交代でアカデミアや官需予算の執行が鈍化する等、不透明な状況は継続しています。
そのような中、当社はメガファーマ攻略、臨床、PFAS分析向けに注力を行い、
受注拡大を図っています。また、サービス会社のZef社の業績が新規連結したことも寄与しています。

欧州は、ウクライナ紛争長期化の影響により、官需予算削減、凍結、ドイツ経済の低迷など不確実性が
向上しています。
当社はその中でも、比較的市場が安定しています製薬、臨床、環境分析の分野に注力しています。

中国は、政府支援策により、市況は回復基調と見ています。
当社は、政府支援策の主たる対象市場であるアカデミアおよび税関向けに伸長しています。
加えて、低迷していた製薬向けも、第3四半期では前年並みの▲1%まで回復してきました。

最後にインドですが、事業環境は継続して好調です。ただし、当社は前年の3Qに特需があった反動でマ
イナスになっていますが、下期全体の受注は前年同期比+20%を見込んでいます。

計測中国の見通し

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 『大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画』によりアカデミア、税関を中心に案件が増加
- グリーン領域では新汚染物質規制強化、ヘルスケア領域では薬典改定による需要増に期待
- 国産優遇に対応するため、中国の工場を拡張

政府支援策
(大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画)

- ・ 今年度受注目標\$30M
- ・ 3Qまでに\$20Mを受注

グリーン

- ・ 新汚染物質管理行動計画による分析用途向け装置拡販
- ・ 水素プロジェクト、EV・リチウム電池市場向けに、GCや試験機などの展開拡大

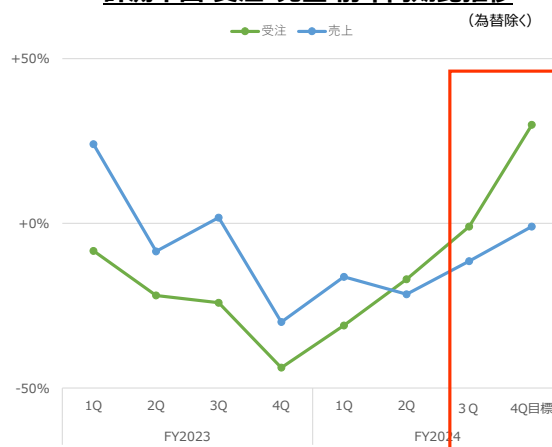
ヘルスケア/製薬
FY2025 薬典改訂

- ・ 2025年10月に施行 (当初の7月から遅延) FY2025 1Qから業績貢献
- 追加成分の分析メソッド、ソリューションの早期開発、販促強化

現地生産強化

- ・ 国産優遇に対応するため、中国工場を拡張 LC、MSなどのハイエンド機生産を拡大

計測中国 受注・売上 前年同期比推移 (為替除く)



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

17

それでは、計測中国の見通しについてご説明します。

受注は、対前年増減率で、2023年度の第4四半期から徐々に回復し、2024年度の第3四半期でほぼ前年並に戻りました。第4四半期は、前年同期比+30%を予想しています。受注が改善していることもあり、来年度の売上も回復すると見えています。

受注回復の理由は、次の3つです。

1つ目は、スライドの最上段にあります政府支援策の大規模設備更新プロジェクトです。詳細については次のページで説明します

2つ目は、グリーン領域に向けた取り組みです。新汚染物質管理行動計画が発表されており、PFAS等の汚染物質の分析需要の拡大が期待されます。環境分析で使用されるLC-MS（液体クロマトグラフ質量分析計）やGC-MS（ガスクロマトグラフ質量分析計）のアプリケーション開発、水素やリチウムイオン電池といった新エネルギー市場に向けて、取り組みを進めています。

3つ目は、薬典改訂に向けた取り組みです。漢方薬やバイオ医薬品の規制に対応したアプリケーションを準備し、需要の取り込みを図っています。ただし、薬典改訂の施行が、当初想定していた2025年度の7月から10月に、3カ月程度後ろ倒しになると予想しておりまして、売上貢献は来年度以降になると見えております。

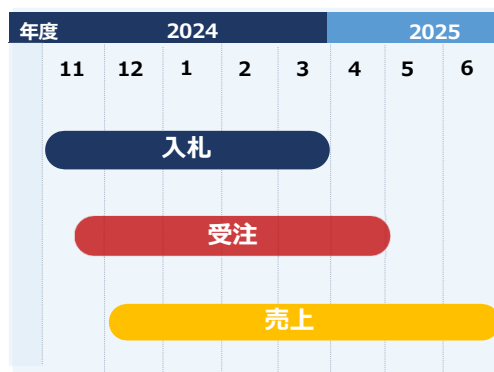
また、この中国の需要再拡大とともに、国産優遇という指針に対応するために現地生産を強化しています。

計測中国／大規模設備更新プロジェクト

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 対象投資期間：2024年～2027年の4年間 財源：超長期特別国債 総投資規模：100兆円
- 3Qまでに\$20Mを受注
- 今年度受注目標は\$30M

スケジュール



対象顧客

- 01 教育部直轄大学・職業学院
- 02 省市級大学・職業学院
- 03 出入境検疫局（税関）
- 04 衛生・動植物検疫局（税関）
- 05 疾病予防コントロールセンター（CDC）
- 06 民間企業

取組み

- エリア別プロジェクト案件把握
- 分野別 推奨システム提案
- 国産案件への中国生産品提案
- 製販連携での納期対策

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

18

前ページでお話しました、政府支援策の大規模更新プロジェクトについてご説明します。

このプロジェクトは、ご案内のように2024年3月に発表されております。

4年間で、総投資規模は100兆円で、
対象市場として今年度はアカデミアおよび税関関連に動きがあります。

ただし、若干、入札の時期が遅れております。

受注については第3四半期から一部計上、売上は第3四半期、第4四半期に加えて、
来年度2025年度の第1四半期での計上を見込んでおります。

本プロジェクトは、来年度以降も新たな展開が期待でき、
今後も引き続き、取り組みを強化していきます。

- 事業拡大、国産優遇に対応するため、中国工場を拡張し、2024年12月に竣工。製造能力は2.4倍に
- 拡張した工場では、LC,MSを中心としたハイエンド品を生産

- ・竣工 : 2024年12月
- ・所在地 : 蘇州市
- ・事業内容 : 精密機器の製造
- ・従業員数 : 約400名
- ・生産品目 : LC、GC、LCMS、GCMS、試験機、
環境モニタリング装置、分光光度計等
- ・投資金額 : 約30億円
- ・その他 : 自動化設備、最新の塗装設備を導入
省エネ設備・太陽光発電でCO2排出を削減

今回拡張した工場



中国の工場は、中国で販売する分析機器を製造するために1998年に設立しております。今回で4度目の拡張となります。新工場は昨年12月に竣工しています。

拡張した工場では、塗装設備の自動化、自走の倉庫を導入し、生産性の向上を図っています。LC-MSなどのハイエンド品を中心に生産を進める計画です。

一方、LC-MSといったハイエンド製品ですので、技術流出の観点には非常に留意しながら、現地生産の拡大を目指します。

03 2024年度通期業績予想

ここからは、2024年度の通期予想について、ご説明申し上げます。

2024年度通期業績予想

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 3Qまでの状況を鑑み、前回公表値から予想を修正

	単位：億円	通期			前期比	
		FY2023	FY2024 旧予想	FY2024 新予想	増減額	増減率
業績	売上高	5,119	5,400	5,400	+281	+5%
	営業利益	728	760	730	+2	+0%
	営業利益率	14.2%	14.1%	13.5%	▲0.7pt	
	経常利益	769	770	750	▲19	▲2%
	親会社株主に帰属する当期純利益	570	580	580	+10	+2%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	144.66	148.84	153.50	+8.84	+6%
	ユーロ(円)	156.85	160.49	163.90	+7.05	+4%
研究開発費		215	280	280	+65	
設備投資額		225	280	280	+55	
減価償却費		186	200	200	+14	

為替感応度

米ドル ユーロ
売上高： 15億円 3億円
営業利益： 5億円 1億円



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

21

2024年度の通期業績予想につきましてご説明します。

売上高は、前回11月の公表値から変更はありません。

営業利益と経常利益につきましては、第3四半期までの業績を鑑み、営業利益で約30億円、経常利益で20億円、11月の公表値より下方修正しています。
いずれも、売上・営業利益ともに前年を上回っており、過去最高となる見込みです。

当期純利益も変更はありません。

したがって、現時点で期が終わった時点の配当を変更する予定はありません。

2024年度通期業績予想／セグメント別

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 計測：製薬・臨床・グリーンなどの好調な市場、地域での拡大。受注残の売上転化を推進。成長投資などで減益
- 医用：日本、中国の市況低迷を北米やその他のアジアでカバーし増収。プロダクトミックスの悪化などで減益
- 産業：半導体製造装置向けTMPが好調で増収増益
- 航空：防衛向け、民間向けともに好調で増収増益

単位: 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2023	FY2024 旧予想	FY2024 新予想	増減額	増減率	FY2023	FY2024 旧予想	FY2024 新予想	増減額	増減率	FY2023	FY2024 旧予想	FY2024 新予想	前期比 増減
計測機器	3,383	3,480	3,500	+117	+3%	575	580	545	▲ 30	▲5%	17.0%	16.7%	15.6%	▲1.4pt
医用機器	723	760	730	+7	+1%	48	55	40	▲ 8	▲16%	6.6%	7.2%	5.5%	▲1.1pt
産業機器	661	720	725	+64	+10%	74	95	100	+26	+35%	11.2%	13.2%	13.8%	+2.6pt
航空機器	287	380	385	+98	+34%	35	38	50	+15	+43%	12.2%	10.0%	13.0%	+0.8pt
その他	65	60	60	▲5	▲8%	10	10	10	▲0	▲4%	11.4%	11.8%	11.8%	+0.4pt
調整額	-	-	-	-	-	▲15	▲18	▲15	▲0	-	-	-	-	-
合計	5,119	5,400	5,400	+281	+5%	728	760	730	+2	+0%	14.2%	14.1%	13.5%	▲0.7pt

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

22

それでは、2024年度の通期セグメント別業績予想についてご説明します。

計測は、売上高が3,500億円、営業利益が545億円と予想しています。
売上高は増収ですが、営業利益は成長投資が粗利増を上回るために、減益となる見込みです。
製薬・臨床・グリーンなどの好調な市場・地域での拡大や、受注残の売上転化を推進します。

医用は、売上高730億円、営業利益は40億円と予想しています。
計測と同様に売上高は増収ですが、営業利益は減益となる見込みです。

産業は、売上高725億円、営業利益は100億円と予想しています。
売上高は、半導体製造装置向けのTMPの需要拡大が業績を牽引し、
営業利益は、売上拡大に加えて、TMPのリカーリング比率の向上により、
初めて100億円超を目指します。

航空は、売上高385億円、営業利益は50億円と予想しています。
背景には防衛力の強化方針による防衛関連事業の増加、
あるいは航空旅客需要の増加に伴いまして、民間機向けパーツの需要も増加しました。

④ トピックス

・インド事業拡大

続いてトピックスをご説明します。

現在のインド事業

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 主に計測と医用の販売を行う。
- 計測は島津と代理店で全インドをカバー。総勢約1,500名体制

歴史



拠点

島津グループ販社

- ★ 本社
- 支店
- ラボ



ムンバイ本社
アプリケーションセンター

島津代理店

- 拠点



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

24

成長が著しいインド市場への取り組みについてご説明します。

当社のインド事業は、主に計測機器と医療機器の販売を行っています。
医用は2001年、計測は2005年に販売会社を設立しまして、現地の代理店と競合して、販売網の充実を進めています。

2023年の売上高は目標169億円を上回り、178億円です。
2017年に売上高100億円を突破し、業績を伸ばしてきました。
2024年の売上高目標は倍増の200億円を目指しています。

当社のインド事業の代理店網はほぼインド全域をカバーしております。
当社の販売会社と代理店の従業員を合わせますと、1,500名という人員体制です。
お客様に対する最適なサポート体制で、さらに売上シェアを伸ばしていく計画を立てています。

- 製薬市場で高いシェア：液体クロマトグラフ シェアNo.1
- ジェネリック医薬品の品質管理向けに、お客様の声を反映した使いやすく、省スペースの高性能製品を投入
- 製薬企業で重視されるデータ管理の負担をネットワーク構築で解決



薬の生産量増加により
品質管理の需要増加



一体型液体クロマトグラフ
i-Series

薬の品質管理に
特化した製品を投入

- ・製薬企業向けに豊富な製品ラインナップを活かした
トータルソリューションを提供
- ・分析データ管理ソフトウェア (LabSolutions) による
ネットワーク構築で、安全なデータ管理と効率化を実現



液体クロマトグラフ

インドシェア1位： **40%**
(世界シェア：25%)
* 台数ベース * FY2023時点



計測の重点機種である液体クロマトグラフは、インド国内でNo.1のシェアを誇っております。
ジェネリック医薬品の品質管理に特化した製品を投入したことで、シェアを拡大してきました。

また、装置本体だけではなく、ソフトウェア、ネットワークを含めたトータルソリューションの提供も進め、さらなるシェアの拡大を図っております。

今後の展開

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 製造ではサプライチェーン強靱化、地産地消確立と国産優遇策“Make in India”への対応が課題
- 開発・販売・サポートにおいては臨床市場対応とソリューション提供が課題

ソリューション提供の強化

現地顧客のニーズに応えるアプリケーション開発が必要

臨床領域向け事業戦略の立案

臨床向け規制・認証取得を見据えた開発が必要

臨床領域での販売力向上

計測機器の臨床市場展開には新たな販売網が必要

顧客・代理店支援機能の充実

購入前後の評価・教育機会の拡充で顧客満足度向上へ

開発

製造

販売・サポート

サプライチェーン強靱化

現状、インド向けにはマレーシア、日本から
主要製品を輸出しており、需要拡大に対応する
サプライチェーン強靱化、地産地消の確立が必要

インド国産優遇対策

インド政府が2014年から推進
“Make in India”政策への対応が重要

政府系調達案件では入札参加条件に国産化率が設定される場合あり
条件を満たせば他社より高額で落札できる優遇処置がある



今後の展開について、ご説明します。

開発においては、インド特有のニーズに対応するソリューション提供の強化と、
規制・認証取得を見据えた、臨床領域向けの事業戦略の立案を推進します。

製造ではサプライチェーンの強靱化、地産地消の確立と
国産優遇策Make in Indiaの対応が課題です。

販売サポートは、「計測機器を臨床市場分野に販売していくための新たな販売網」と
「顧客および販売代理店の支援機能の充実」を図ります。

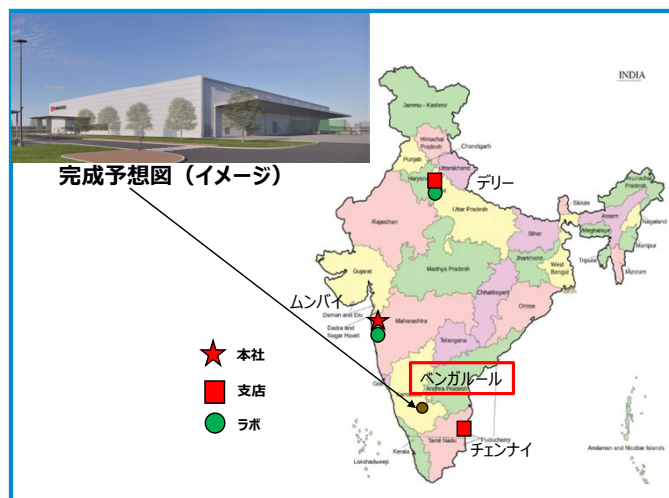
工場の新設

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 2025年3月に製造会社を設立、2027年春の操業開始を目指す
- 当初は計測機器の製造だが、将来的には医用機器、産業機器（ターボ分子ポンプ）も視野に入れる

新工場の概要

- ・名称 : Shimadzu Manufacturing India Private Limited
- ・設立 : 2025年3月
- ・工場竣工 : 2027年春頃
- ・所在地 : カルナタカ州 ベンガルール
- ・面積 : 敷地40,000㎡、建屋5,500㎡
- ・事業内容 : 精密機器の製造
- ・従業員数 : 50名 *2035年150名を予定
- ・生産品目 : 計測機器（将来的には医用機器、産業機器）
LC, GC, LCMS, GCMS, 紫外可視分光光度計
- ・投資金額 : 約25億円
- ・その他 : 太陽光発電でCO2排出を削減



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

27

製造強化についてご説明します。

カルナタカ州ベンガルール、かつてバンガロールと呼ばれていた都市に新工場を設立します。
今年3月に新たな製造会社を設立し、2年後の2027年春の竣工を予定しています。
投資金額は約25億円、従業員数はおよそ50名からスタートします。

当面は液体クロマトグラフ、ガスクロマトグラフなど計測機器のみですが、いずれは医用機器、ターボ分子ポンプや油圧機器などの産業機器の製造も検討しています。

販社統合による業容拡大

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 計測および医用の販社を統合。新会社を設立し、業容拡大を目指す
- 統合により、開発・販売・サポートを強化

計測・医用の販社を統合

Shimadzu
Analytical
(India)
Pvt. Ltd.



Shimadzu
Medical
(India)
Pvt. Ltd.



2025年夏

Shimadzu India Pvt. Ltd.
を設立

開発

- アプリケーションラボの増強
- 医用事業の規制対応・認証取得機能の計測事業への展開
- 計測・医用・外部が連携した **Advanced Healthcare**事業



計測・医用事業統合後の新オフィス

販売・サポート

- 医用事業の販売網を活用した計測事業の臨床市場への展開
- 顧客・代理店向け操作・アプリケーショントレーニング「Shimadzu Academy」による顧客満足度の向上



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期第3四半期決算説明会

28

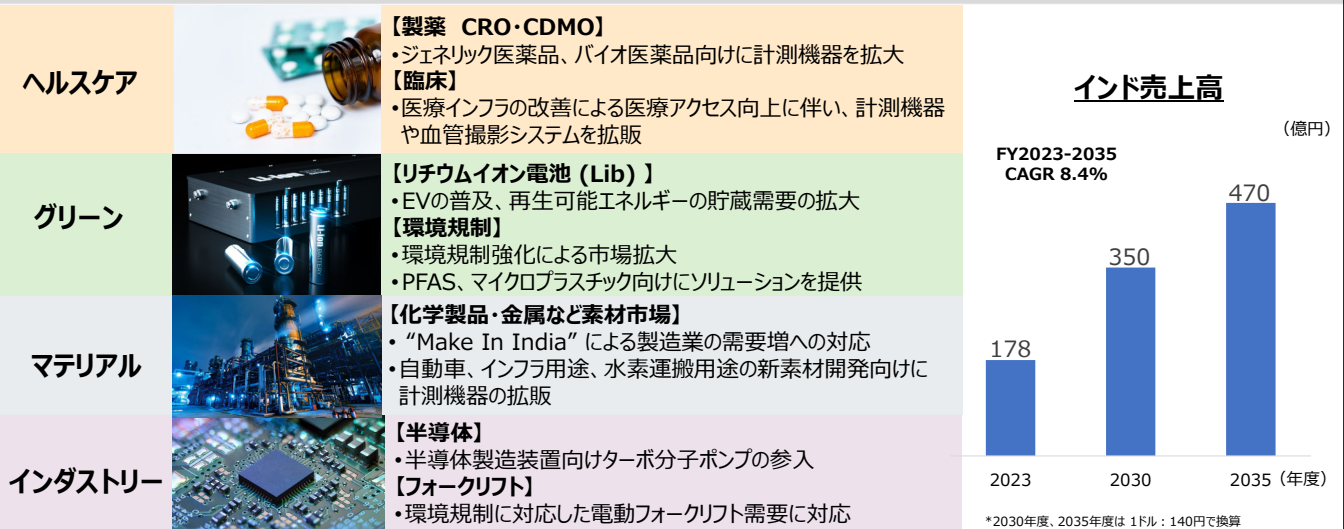
今年の夏に予定している計測と医用の販社を統合した Shimadzu India Pvt. Ltd. (シマヅ・インディア・プライベート・リミテッド) の設立により、開発・販売・サポートの施策を **推進** します。

開発では、アプリケーションラボの増強、規制対応・認証取得機能の強化、計測・医用融合による Advanced Healthcare推進など、統合による新しい価値を創出していきます。

販売・サポートでは、医用事業の販売網を活用した臨床市場への計測機器の拡販や、顧客代理店向け操作・アプリケーショントレーニングを行うShimadzuアカデミーによる顧客満足度の向上を図ります。

インド事業の見通し

■ 各領域で戦略を遂行し、2030年度に売上高350億円、2035年度に売上高470億円へ



このスライドは、左に当社の施策、右に売上目標を記載しています。

ご紹介したように、インドは今後も成長が期待されます。
当社は、様々な施策を実行し、売上高は2030年度350億円、
2035年度470億円の達成を目指します。



2025年3月31日に
当社は創業から**150年**を迎えます。

積み上げてきた歴史は
ステークホルダーの皆様とともに
創ってきた**イノベーションの歴史**です。

今後も**共有価値の創造**を実現することで
島津グループを飛躍させてまいります。

最後になりますが、1875年に創業した当社は、2025年3月31日に150周年を迎えます。

積み上げてきた歴史はステークホルダーの皆様とともに創ってきたイノベーションの歴史です。

今後も共有価値の創造を実現することで島津グループを飛躍させてまいります。

ご清聴ありがとうございました。



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、
経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動
要素により、事前見通しと大きく異なる結果となる
ことがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部
IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

連結業績（4-12月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

	単位：億円	第3四半期累計(4月-12月)		前年同期比	
		FY2023	FY2024	増減額	増減率
業績	売上高	3,656	3,843	+187	+5%
	営業利益	507	470	▲37	▲7%
	営業利益率	13.9%	12.2%	▲1.6pt	
	経常利益	529	492	▲38	▲7%
	親会社株主に帰属する当期純利益	391	361	▲29	▲7%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	143.33	152.61	+9.28	+6%
	ユーロ（円）	155.34	164.87	+9.52	+6%
	研究開発費	154	206	+52	+34%
	設備投資額	164	172	+8	+5%
	減価償却費	139	145	+6	+5%

為替影響額

売上高：131億円

営業利益：52億円

セグメント別損益（4-12月）

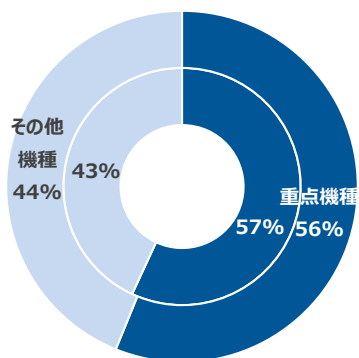
Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2023	FY2024	前年同环比		FY2023	FY2024	前年同环比		FY2023	FY2024	増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	2,423	2,479	+56	+2%	408	338	▲69	▲17%	16.8%	13.6%	▲3.2pt
医用機器	507	503	▲4	▲1%	24	16	▲7	▲31%	4.7%	3.3%	▲1.4pt
産業機器	473	534	+61	+13%	52	79	+27	+53%	10.9%	14.8%	+3.9pt
航空機器	205	280	+75	+37%	28	41	+13	+46%	13.6%	14.5%	+1.0pt
その他	48	47	▲1	▲2%	7	4	▲2	▲35%	10.0%	6.8%	▲3.2pt
調整額	-	-	-	-	▲10	▲8	+2	-	-	-	-
合計	3,656	3,843	+187	+5%	507	470	▲37	▲7%	13.9%	12.2%	▲1.6pt

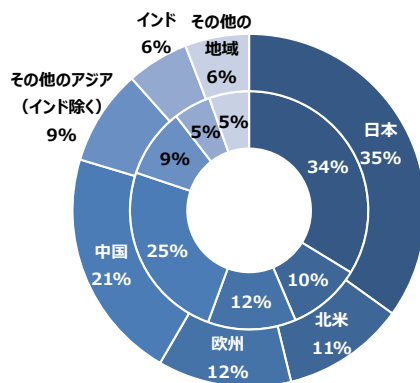
計測機器/各種売上高構成比率（4-12月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

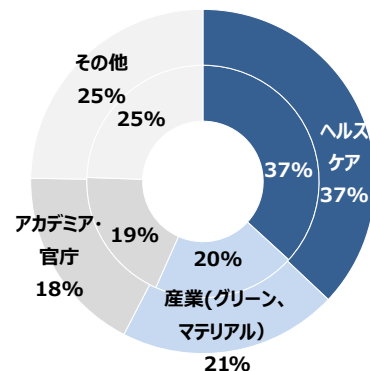
機種別



地域別



市場別



※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

計測機器/重点機種売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 重点機種 LC : 日本、インドで医薬向け増加。北米で特定顧客向け増加。中国で医薬・CRO向け減少
MS : 欧州で臨床向け増加。中国で税関・アカデミア向け増加
GC : 新製品が化学向けで増加。中国でアカデミア、化学向け減少

	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
重点機種	+2%	+14%	+9%	+25%	+13%	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%	+3%	▲2%	+2%
全体	+1%	+15%	+15%	+20%	+13%	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%	▲1%	+4%

※為替影響を含む

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

計測機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 日本：医薬向けにLC、MS、新素材向けに試験機が増加
- 海外：インドは医薬・CRO向け増加。中国が医薬・CxO向け、アカデミア特需の反動で大幅に減少

	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%
北米	▲2%	+12%	+20%	+22%	+13%	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%	+13%	+21%
欧州	+13%	▲1%	+18%	+28%	+14%	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%	+4%	+3%
中国	▲14%	+36%	+6%	+49%	+17%	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%	▲19%	▲10%
その他のアジア	+37%	+25%	+24%	+18%	+25%	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%	+3%	+1%
インド	+50%	+22%	+26%	+8%	+23%	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%	+25%	+4%

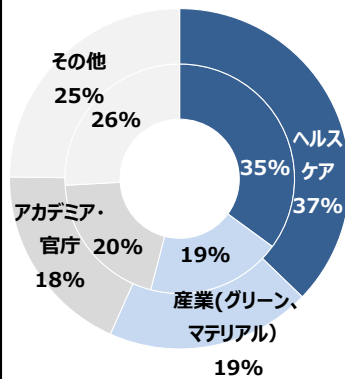
※CxO: CRO、CMOならびにCDMO

※為替影響を含む
※インドはその他のアジアの内数

計測機器/領域別売上高比率（10-12月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

市場別売上高構成比



市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2023	FY2024		
ヘルスケア ・医薬品・食品 ・医療機関 ・受託分析業	35%	37%	+5%	・医薬は、中国を除きグローバルで増加 ・臨床（医療機関）は、北米、欧州で増加
産業関連 （グリーン、マテリアル） ・化学・素材 ・電機 ・自動車	19%	19%	+2%	・新素材開発向けに試験機が増加
大学・官公庁	20%	18%	▲8%	・北米は政権交代で予算執行鈍化 ・欧州は、大学・官需向け予算削減の動き

※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

計測機器/領域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

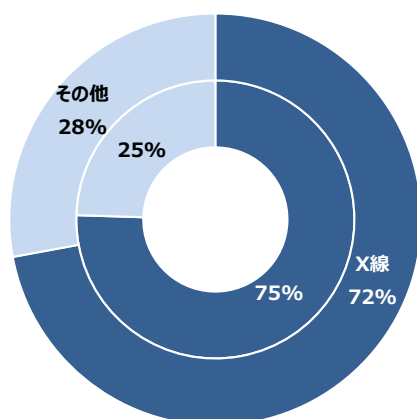
	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
ヘルスケア	▲7%	+19%	+14%	+14%	+10%	+24%	+7%	▲4%	▲8%	+3%	+1%	▲4%	+5%
産業 (グリーン、マテリアル)	+6%	+17%	+12%	+19%	+14%	+15%	+8%	+6%	+5%	+8%	+7%	+2%	+2%
アカデミア・官庁	+20%	+17%	+8%	+30%	+19%	+20%	+25%	+23%	▲2%	+14%	▲2%	▲8%	▲8%

※為替影響を含む

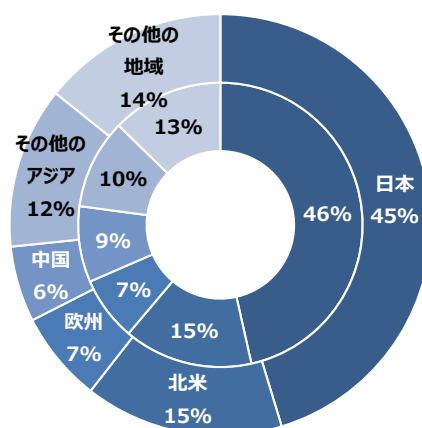
医用機器/各種売上高構成比率（4-12月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

医用機器/地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位 億円		FY2023	FY2024	前年同期比		3Q概況
				増減額	増減率	
日本	3Q累計	236	228	▲8	▲3%	市況回復の遅れによりX線機種が減少
	1Q	71	70	▲1	▲1%	
	2Q	88	85	▲3	▲3%	
	3Q	77	72	▲4	▲5%	
海外	3Q累計	271	275	+4	+1%	海外売上高比率は55%(前年比横ばい)
	1Q	73	85	+12	+16%	
	2Q	102	100	▲2	▲2%	
	3Q	96	90	▲6	▲6%	
北米	3Q累計	74	77	+2	+3%	X線TVシステムが増加 回診車が減少
	1Q	17	24	+6	+37%	
	2Q	33	30	▲3	▲8%	
	3Q	24	23	▲1	▲6%	
欧州	3Q累計	37	35	▲2	▲5%	東欧向けにX線TVが増加
	1Q	9	10	+1	+11%	
	2Q	11	8	▲3	▲30%	
	3Q	17	17	+0	+3%	
中国	3Q累計	44	29	▲15	▲33%	市況悪化や腐敗防止強化による入札案件の遅れにより X線機種が減少
	1Q	14	9	▲5	▲36%	
	2Q	17	12	▲5	▲29%	
	3Q	13	9	▲5	▲36%	
その他の アジア	3Q累計	52	62	+11	+20%	東南アジアで、X線TVシステムが増加
	1Q	16	18	+2	+15%	
	2Q	17	25	+8	+47%	
	3Q	19	20	+0	+1%	

医用機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 国内：市況回復遅れの影響を受け減収
- 海外：中国が市況回復遅れ、入札案件の遅れにより大幅減

	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%
北米	+4%	+52%	+21%	+28%	+26%	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%	▲8%	▲6%
欧州	+5%	+61%	+2%	+33%	+22%	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%	▲30%	+3%
中国	+12%	▲12%	+5%	+23%	+6%	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%	▲29%	▲36%
その他のアジア	+10%	+16%	+7%	+19%	+13%	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%	+47%	+1%

※為替影響を含む

産業機器/機種別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- TMP : 半導体製造装置向けが増加
- 油圧 : 輸送機・小型建機向けが軟調
- その他機種 : 自動車用セラミック製造向け工業炉が増加

	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
TMP	+20%	+22%	+9%	+1%	+12%	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%	+7%	+10%
油圧	▲1%	+1%	+3%	+10%	+3%	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%	▲4%	▲2%
その他	+17%	+12%	+11%	+24%	+16%	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%	+42%	+7%

※為替影響を含む

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。
FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前年同期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

リカリング比率

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 計測 : 日本・北米で医薬向け、欧州で臨床向けメンテナンス・サービスが増加
- 医用 : 北米で代理店買収によりメンテナンス・サービスが増加
- TMP : 台湾、韓国で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカリング売上高 前年同期比	+4%	+19%	+30%	+14%	+17%	+14%	+7%	▲1%	+4%	+5%	+9%	+6%	+12%
リカリング比率	39%	36%	40%	33%	37%	39%	35%	37%	34%	36%	41%	38%	40%

医用	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカリング売上高 前年同期比	+8%	+11%	+7%	+6%	+8%	▲0%	▲4%	+4%	+5%	+1%	+6%	+3%	+1%
リカリング比率	36%	32%	39%	30%	34%	42%	34%	37%	33%	36%	41%	36%	40%

TMP	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカリング売上高 前年同期比	+8%	+3%	+12%	▲14%	+2%	▲6%	▲4%	+15%	+47%	+12%	+58%	+52%	+36%
リカリング比率	15%	14%	16%	13%	15%	15%	14%	18%	17%	16%	19%	19%	22%

※為替影響を含む

為替推移

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

為替	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
USドル	129.6	138.4	141.6	132.4	135.5	137.4	144.7	147.9	148.6	144.7	155.9	149.4	152.5
ユーロ	138.2	139.4	144.3	142.2	141.0	149.5	157.4	159.2	161.4	156.9	167.9	164.0	162.6

前年同期比	FY2022					FY2023					FY2024		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
USドル	+18%	+26%	+24%	+14%	+21%	+6%	+5%	+4%	+12%	+7%	+13%	+3%	+3%
ユーロ	+5%	+7%	+11%	+9%	+8%	+8%	+13%	+10%	+14%	+11%	+12%	+4%	+2%

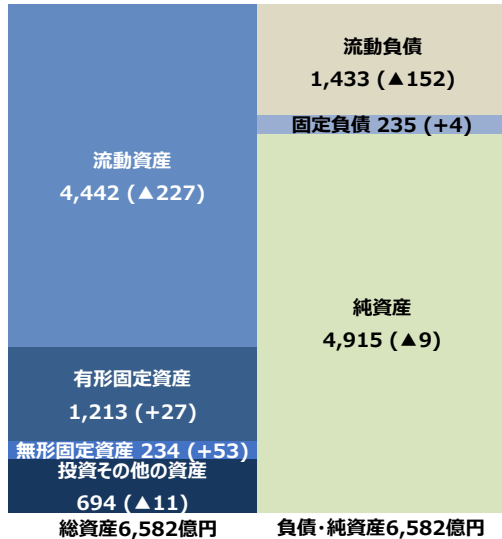
連結財政状態

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 2024年12月末総資産 6,582億円（2024年3月末から▲157億円）

■ 自己株式の取得205億円により流動資産・純資産減少

(億円)
増減は2024年
3月末対比



資産

流動資産 ▲227億円

- 現金 ▲317億円（自社株取得、Zef社買収など）

無形固定資産 +53億円

- のれん増加 +50億円（Zef社新規連結など）

負債・純資産

流動負債 ▲152億円

- 支払債務 ▲84億円

純資産 ▲9億円

- 利益剰余金 +177億円
- 自己株式の取得 ▲205億円

(参考) 計測中国／薬典改定

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 2025年10月に施行予定（当初予定より3か月後ろ倒し）
- 2025年4月から初期需要が発生し、10月施行前後の半年間に渡って薬典分析ニーズに対応した需要が継続

2025年版薬典改訂状況

分類	改訂状況	重点管理物質
漢方薬	新規100種 改訂500種	- 残留農薬、植物成長促進剤 - 重金属など有害物質
化学薬品	新規100種 改訂400種	- 遺伝毒性不純物 - 化学合成ペプチド
バイオ薬	新規10種 改訂80種	- 細胞治療製品 - ADC（抗体薬物複合体） - ワクチン中の不純物
添加剤 薬包材	新規40種 改訂60種	- 残留溶剤 - 有害元素
分析法	分析法80種	- 残留溶剤 - 元素不純物 - 残留農薬

薬典の施行スケジュールと需要見込

年	2024		2025												2026		
月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
★ 3月公布(予定)										★ 10月施行(予定)							

★ 3月公布(予定)

★ 10月施行(予定)

需要期間

施策

- 2025年版薬典対応のアプリケーションの開発・提案
- 漢方薬の上位企業向け販促強化